保育園・保育園型

平成３１年度（令和元年）自己評価書

真庭市立久世保育園

１．　久世保育園の教育保育目標

児童福祉法に基づき保育を必要とするすべての子どもに対し、安心・安全な生活の場を保証し、保護者と共に子どもの最善の利益を考慮した保育を行う

・生き生きとした元気な子ども
・自分で考えて行動する子ども
・友達と共に育ち合う子ども

２．　本年度の重点目標

居心地の良い環境の中で育ち合う保育
・子どもが健康、安全で情緒の安定した生活が出来る環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動できるようにすることにより、健全な心身の発達を図る
・養護と教育が一体となって、豊かな人間性を持った子どもを育成する
・地域による子育て支援のために、乳幼児などの保育に関する相談に応じ、助言するなど社会的役割を果たす

今年度研究主題
　子どもが生き生きと遊べる環境づくり（子どもと作り出す環境に着目して）
―子どもの主体的な遊びを保障する環境構成と保育士の手立てを探る―

３．　園評価の個別評価

評価指標	考　察	園総合評価
教育課程・指導計画	教育課程・教育目標を遊びや生活に位置づけて計画の立案、実践及び再構成が概ね達成できた。研究テーマに沿った保育実践に努めた。	3
行事	保護者アンケートからも行事の種類や回数は適切であった。活動等を通して保護者や地域住民にねらいや園の様子を知らせるよう努めた。	4
組織・運営	職員間で共通理解し、徐々に連携を図ることができた。行事の計画については職員間の連携、計画性に課題もある。	3
学級経営	子どもが興味をもち、主体的に遊べる環境になるように環境構成を工夫したり、援助したりした。園児理解に心がけ、一人一人の子どもに応じたかかわりや支援を行うように配慮した。	3
特別支援教育	支援の必要な家庭については各種専門機関と連携を取り、園で出来る対応を行っている。	3
安全管理・保健指導	事故や大きな怪我もなく、安全教育に関しては目標を達成することができた。環境整備に関しては遊具の老朽化もあるため念入りな安全点検を実施継続する。園舎内外の安全管理と共に避難訓練・交通指導・遊具の安全な使い方など計画的に安全教育を行った。園児一人一人の体調や感染症の流行状態に気を配り、早めの対応を心掛けた。	4
研修（資質向上）	研修（各種研修会、研究会）に積極的に参加し、専門的知識を高めるように努めているが、個々の資質向上のみになっている。園内研修の場で学んだことを他者に反映し、全職員が保育を顧みる機会となるようにしたい。	2
情報提供・保護者・地域との連携	各種便り、掲示板、ホワイトボード等を使って分かりやすく園の様子を伝える工夫ができた。今後は HP での発信の仕方も工夫したい。	3
小学校との接続・連携	計画した小学校との交流活動は行っているが、子どもの育ちを共有し、保育教育課程の接続ま	3

	ではできていない。まずは、職員同士の交流の場が持てるようにしていきたい。	
子育て支援	保護者からの連絡に対して素早く適切な対応をした。	3
食育の推進（給食）	食物アレルギーに対しては、日々気を配りながら提供した。	3
食事の提供（調理）	食材に関する関心を育て、楽しく食べる工夫や配慮ができた。栽培・クッキング・行事食など実施したが、保育士と調理担当者との連携不足な点がある。	3

４．その他必要な評価

評価指標	考　察	園総合評価
生き生きと遊べる環境	子どもの主体的な遊びができるように各クラス別や異年齢交流などいろいろ工夫して取り組んだ。少しずつ自己発揮して遊ぶ姿が見られた。	3
自分で考えて行動する子どもの育成	個々の年齢や発達段階を考慮し、個々にあった手立てを工夫し、徐々に指示されるのではなく、自分で考えて行動しようとする姿が見られるようになってきた。特に４・５歳児では「頑張りカード」を活用することにより意欲が増してきた。	3

５．　本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

研究テーマを「子ども達が生き生きと遊べる環境づくり」として子どもの主体的な遊びを保障する環境構成と保育士の手立てについて研究をしている。昨年度は環境構成については保育士主導の環境になりやすく、遊び込める子どもが少なかったが、今年度は職員間で連携を取りながら、環境の再構成を繰り返すことによって、少しずつ子ども主体の保育を実践できるようになってきた。また、「頑張りカード」を取り入れることにより、子どもが新しいことにも興味をもち、自発的に遊べる環境を作り出すことが出来た。目当てや目標が明確になったことにより、子ども達の挑戦する意欲が増したと推測する。

６．評価結果を受けての具体的改善方策等

基本的な生活習慣や生活する力が身に付くように、個々の発達に応じた関わりや支援をするように努めているが、定着できていない園児も多い。園と家庭との連携が大切である。参観日を利用し、保護者の子育て力の向上に繋がるような内容の講演会を開催したり、お便り等で現状や改善策を知らせたりし、家庭と連携して定着できるようにする。

職員の資質向上に関しては研修会には参加しているが、一人一人の保育の資質向上に留まっているので、園内研修を通して全職員の質の向上に繋がるようにする。

運営に関しては早期に、各種会議を計画・開催し、共通理解を図ることが大切であり、会自体の運営を効率的に進める必要もある。また、安心安全な給食の提供では保育士と調理担当者が普段から、報告・連絡・相談を行い、しっかりと連携を取るようにする。

（保護者アンケートの結果や園内職員で改善策を話し合ったことなど織り込んで記入する）

園評価基準

評　価	基　準	
4	８０％以上の達成度	十分達成されている
3	６０％以上８０％未満の達成度	概ね達成されている
2	４０％以上６０％未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	４０％未満の達成度	取り組みが不十分である